

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-29

県甲第一四八号

(発行年 / Year)

1910

縣甲第一四八號

沖繩縣ニ民法施行ニ就キ意見ノ有無膏テ御照
會有之候處同縣土地ニ關シテハ當分民法ヲ施
行セサルコトニ致度別紙取調書相添此段及回
答候也

明治三十年十一月八日

内務次官中村元雄

法典調査會副總裁清浦奎吾殿

民法施行ニ關スル取調書

民法調査會

民法施行ニ関スル取調書

沖繩縣ニ明治二十九年法律第八十九號民法ヲ施行スルハ大體ニ於テ敢テ支障ヲ見サルモ獨リ土地ニ関スル事項ハ同法ノ正條ヲ以テ直チニ適用シ得サルモノアリ

抑々沖繩縣ノ土地ハ舊藩ノ制度ヲ襲用シタル儘ニシテ其種類実ニ三十有餘ノ多キニ及ヒ一々之カ起因性質等ヲ調査セントスルモ舊記ノ徵スヘキモノ少シ然レトモ之ヲ大別セハ蓋シ舊藩ニ於テ使用收益處分ノ權能即チ所有權ノ實體アルコトヲ認許シタルモノト否ラサルモノトノ二トナスヲ得ヘシ而シテ縣下凡百ノ土

法典調查會

地中所有權ノ実態アル土地ハ僅カニ仕明地、請地、屋敷地(那覇首里ニ在ル墳墓地、仕明山野等四五種アルノミニシテ縣下土地面積ノ十分ノ一二ニ止リ他ハ悉ク使用收益ヲナスモ處分ノ權能ヲ有セサルモノナリ今マ便宜ノ為メ左ニ兩種ノ土地ヲ區別シテ述フル所アルヘシ

甲 所有權ノ実態ナキ土地ハ果シテ何レノ所有ニ屬スルヤ輕ク之ヲ断定スルヲ得ヌ現ニ右土地ノ内最モ多數ナル百姓地ノ如キハ使用收益ノ權利ヲ有スルモ賣買讓與等處分ノ權能ハ舊記ニ由リ之ヲ許サス且同地ハ村ニ於テ五六年乃至二三十年ヲ以テ地割替ノ期トナシ每期村内ノ地人(本采ノ百姓ニシテ他ヨリ移住セシ土著雜種ヲ除ク)ニ分賦耕

作せしむルモノニシテ耕作者タル地人其者
ヲ以テ所有者ト見做サン乎處分ノ權能ナシ
村ヲ以テ所有者ト見做サン乎村ニ處分ノ權
能ナキハ勿論村民ニ必賦耕作ノ割合ヲ定ム
ルモ其土地ヲ村民ニ貸付スルカ如キモノト
ハ其趣ヲ異ニセリ然ラハ國ノ所有ニ屬スル
モノトイフヲ得ヘキカ舊藩制ニ依レハ村ノ
疲弊シ百姓地ノ耕作モ貢租ノ上納モナサシ
ムヘキ見込ナキ場合ニ於テ藩廳ヨリ御手入
處分トシテ其耕作ニ能ハサル土地ヲ他ヘ賣
却シ当該村ノ疲弊ヲ救済セシコトアルト藩
用ノ為メ無代價ヲ以テ其牧用ヲ命シタルコ
トアル外藩カ本土地ニ對シ所有ノ權利アリ

法學叢書卷

ト認め得ヘキ実跡ナシ故ニ此等ノ事實ヲ以
テ全然藩ノ所有ニ屬スルモノト推定スル能
ハス隨テ置縣後又國ノ所有ニ屬セシモノト
断言スルヲ得サルナリ要スルニ此種ノ土地
ハ現ニ其所有權ノ所属不明ナル一種特殊ノ
モノニ屬シ他日土地ノ丈量并其處分ヲ了ル
ニアラサレハ所有權ノ所属確定セサルモノ
ナリ既ニ所有權ノ所属確定セサル以上ハ民
法中同權ニ関スル條文ヲ適用スルモ之カ為
メ利益ヲ享クヘキモノハ何人ナルヤヲ知ル
ヘカラス其他該土地ノ耕作者ハ所有者ニア
ラサルカ故ニ從ヒテ地役權設定行為ノ當事
者トナルコト能ハス又古來該土地ノ賣買ヲ

禁スルト共ニ擔保ノ目的物トナスコトモ許
サ、リシニ由リ留置權質權指當權ノ規定ハ
此種ノ土地ニ関シ適用スルヲ得ス且村地人
ハ百姓地ニ建物及竹木ヲ有シ又ハ百姓地ヲ
耕作スルノ權利アルモ之ヲ以テ地上權アリ
永小作權アリトナシ之ニ関スル規定ヲ適用
スルヲ得サルモノアリ例ヘハ(1)地上權者永
小作權者ハ何人ト其設定行為ヲナシタルヤ
(2)村ハ一定ノ期限毎ニ区域内ノ土地ヲ地人
ニ配賦スルモノナルモ該土地ニ関シ民法上
如何ナル權利ヲ有スルヤ(3)地人ハ百姓地ノ
配賦ニ對シ毎年其土地ニ賦課セラレタル一
定ノ租稅ヲ村ニ納付シ村ハ間切ニ納付シ間
切ハ國庫ニ納付ス然ラハ租稅ハ定期ノ地代
若クハ小作料ナリヤ等ノ困難ナル問題生シ
容易ニ之カ決定ヲナスコト能ハス今之ヲ民
法ノ規定ニ依リ解釋セントスルモ帝ニ正鵠
ヲ得サルノミナラス却テ事實ニ適合セサル
場合ヲ生スヘシ之ヲ要スルニ百姓地ノ如キ
ハ古來特殊ノ制度ノ下ニ支配セラレ私法上
ノ關係又全ク他ト趣ヲ異ニセルカ故ニ全然
民法ノ正文ヲ適用センコトハ得テ望ムヘカ
ラス好シ適用シ得ヘキ事實アリトスルモ土
地ノ處分以前ニ於テ其部分ニノミ同法ヲ適
用シテ一部ノ權利ヲ認ムルトキハ土地關係
者間紛擾ヲ惹起スルニ至ルヤ必セリ其他百

姓地ヲ浮掛又ハ叶掛セルモノアリ共ニ小作
ナルモ浮掛トハ百姓地ヲ村地人ニ配賦シテ
餘リアルトキ村ヨリ其餘地ヲ小作セシムル
モノニシテ叶掛トハ百姓地ノ配賦ヲ受ケタ
ル地人カ自己ノ配当地ヲ他人ニ小作セシム
ルモノナリ故ニ浮掛ハ村ト居住人トノ小作
ノ關係ニシテ叶掛ハ地人ト他人トノ小作ノ
關係ナリ又浮掛ハ多クハ無期限ニシテ而カ
モ村地人ノ口數未タ繁殖セサル時ニ當リ悉
ク百姓地ヲ耕作シ其貢租ヲ納入セシメ能ハサ
ルヨリ舊藩廳ニ於テ那覇首里ノ士族ヲシ
テ間切ニ移住シ右百姓地ノ餘地ヲ耕作セシ
メタルモノナルヲ以テ廢藩以後ニ於テモ村

ヲシテ容易ニ浮掛地ヲ取揚ケシメサル方針
ヲ執リ裁判例モ亦之カ引揚ヲ許サ、ルコト
、ナレリ又叶掛ノ期限ハ種々アルモ素ト地
人カ地割ヲ受ケタル地ヲ小作セシメタルモ
ノナルヲ以テ違クモ地割割ノ期限ヲ起ユル
コトナシ叶掛ハ暫ク擱キ凡テ百姓地ニ對ス
ル貢租ハ村ヨリ間切間切ヨリ國庫ニ納入ス
ヘキ義務アルモノニシテ之ヲ村民ニ公賦ス
ル方法ハ村ニ一任セシモノナリ故ニ村ニ於
テ浮掛人ヨリ叶米浮掛稅トシテ貢租公賦ノ額
ヲ徵スルハ果シテ單純ナル小作料ナルヤ將
タ貢租ノ性質ヲ帯ヒ居ルモノナルヤハ明ナ
ラス故ニ之ヲ以テ直チニ民法上ノ賃貸借ト

シテ論スルヲ得又其他叶科浮樹ノ期限ハ前
述ノ如ク共ニ小作權ノ存續期間(民法第百二
七十八條)若クハ賃貸借ノ期間(民法第百二
條)ト著シク相違アル等古來ノ慣行又ハ内法
ノ規定ハ民法中永小作權若クハ賃貸借ノ規
定ト違背スルヲ以テ若シ同法ヲ適用スルト
セハ自然小作當事者ノ紛擾ヲ醸スヲ免リス
改ニ土地處分迄ハ依然舊慣例ニ據ルコト、
シ民法中土地ニ関スル物權並賃貸借ノ規定
ハ當公施行セサルコト、ナスヲ要ス其他本
項ニ屬スル土地ノ名稱ハ種々アルモ其性質
租百姓地ニ類似スルヲ以テ百姓地ト同シク
是亦民法中關係ノ條項ヲ適用セサルヲ可ト

注 遺 留 權

ス

(乙)

仕明地 請地 屋敷地 (那霸首里ニ在ル) 墳墓地 拜
領地ノ如ク所有權ヲ有スルノ姿アル土地ニ
就テモ亦民法中所有權ニ関スル規定ヲ適用
スルヲ得ス蓋シ該土地ハ舊藩ノ當時ヨリ概
ネ手形(仕明地請地ニ交付スルモノ)差出(那霸首里ノ
屋敷地ニ交付スルモノ)朱引(墳墓地ニ交付ス
ルモノ)請地状(置縣後仕明地請地屋敷地ニ交
付スルモノ)ト称スルモノヲ下付シ使用收益
ハ勿論之カ處分ヲモ認許シタルモノニシテ
差出若クハ手形等ヲ所持スル者ハ該土地ノ
所有者タルハ疑ナキカ如クナルモ己ニ述ヘ
タル如ク本縣ノ土地ハ末々丈量處分ヲ了ヘ

サルヲ以テ官民有ノ區分混乱ヲ極メ且其制
澤テ舊慣襲用ノ儘ニテ膏テ所有ヲ認めタル迄令
ナキカ故ニ直ニ所有權アルモノト認めル
ヲ得ス現ニ昨軍本縣那霸首里ニ區制ヲ實施
セシ當時ノ如キ區制第四條中區内ニ土地ヲ
所有シ云々トアリ而シテ右區民ノ多クハ各
屋敷地ヲ有シ同地ニ就テハ全然使用收益處
分ノ權能ヲ有シ居ルニ関ヒス同制第九十八
條ニ依リ内務大臣ハ同者令第四號ヲ以テ其
第三條中地租改正ニ至ル迄ノ間區制ニ関シ
土地所有者ト見做スヘキモノヲ定ムル方
ハ沖繩縣知事之ヲ定ムトシ之ニヨリ本縣令
第四號ヲ以テ舊踏込差出請地手形ヲ所持ス

法部省令

ルモノヲ以テ之ヲ届出シメ本縣令第九號ヲ
以テ其届出人ヲ區制ノ所謂土地所有者ト見
做スコト・セリ是即チ其所有權所屬ノ從來
明定セシモノアラサルヨリ茲ニ區制ヲ施行
スルニ當リ便宜ノ方法ニ依リ之ヲ認定シタ
ルニ外ナラス此事例ニ徵スルモ本縣仕明地
外四五種ノ土地ニ對シ民法ノ規定ヲ適用セ
ントセハ又土地ノ丈量并處分ヲ了ヘタル上
法律ヲ以テ所有權ヲ確認スル處ナカルハカ
ラサルヤ明ナリトス又本縣ノ土地ハ數百年
前短日月ノ間ニ於テ急速ノ丈量ヲナシタル
儘ニテ爾來精細ナル丈量ヲ行ヒタルコトナ
ク究竟粗漏杜撰ノ短アルヲ免レヌ故ニ丈量

當時ノ耕作地山野地等ノ及別ト今日ニ於ケ
ル及別トヲ對比セハ實ニ甚シキ徑庭アリ而
シテ手形差出等ニ記載セル及別ト實際ト著
シキ差違アルモノ荒蕪地ノ耕作地ニ變シ海
面ノ埋立地トナリタルモノ手形差出等ヲ有
セサルモノ之ヲ有スルモ自己ニ屬スル土地
ノ何處ニ在ルヤヲ知ラサルモノ土地ノ一部
ヲ他人ニ賣却シ手形差出ノ類ヲ截断シ各其
断片ヲ有スルモノ在明地ヲ有スルモノニシ
テ多少ノ報酬ヲ出タシ隣接ノ百姓地ヲ侵蝕
セルモノアル等要スルニ土地ノ所屬區域地
種地目等實ニ漠トシテ捕捉スヘカラス從テ
所有者モ其權利ヲ立證スルノ根據ニ乏シキ
ヨリ徃々權利ノ所屬ニ付爭議ヲ生シ而シテ
之ヲ決定スル場合ニ於テモ舊記ノ徵スヘキ
モノナキ等頗ル困難ヲ感スル実状アリ斯ル
現状ナルニ拘ラス土地ニ關スル民法ノ正條
ヲ悉ク適用スルトモ予各種權利ノ關係上
種々困難ナル問題ヲ生スヘク且此機ニ乘シ
不良ノ徒無智ノ人民ヲ惑惑シテ詭訟ヲ湧起
セシメ其間ニ處シ射利ヲ圖ラントスルモノ
アルニ至ルヤ疑ヲ容レヌ故ニ縣治上ヨリ考
フルモ土地ニ關スル紛雜ナル問題ハ早晚行
ハルヘキ土地ノ丈量并ニ處分ノ際一括シテ
根本的ニ之ヲ決定スルヲ要シ其以前ニ於テ
時々紛擾ヲ起サシムルカ如キハ策ノ得タル

モノニアラス政ニ本項土地ニ對シテモ亦他
ノ各地ト同様其又量ト處分トヲ遂行シ權利
ノ所屬確定シタル上ニ於テ一齊ニ同法ヲ施
行スルヲ以テ最適当ナリトス
之ヲ要スルニ本縣ノ土地ニ關シテハ其丈量并
處分ヲ完了スル迄ハ當分民法ヲ施行セサルコ
ト、為スヲ可トス